

巻頭言

第72回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第72回日本医学放射線学会総会 会長
九州大学医学研究院臨床放射線科学分野 教授
本田 浩



本田 浩 先生

2013年4月11日(木)～4月14日(日)の4日間、パシフィコ横浜にて第72回日本医学放射線学会を開催致します。メインテーマを、「Creation, Innovation, and Globalization ～知の創造、技の革新、そして世界へ～」としました。第69回日本放射線技術学会総会学術大会、第105回日本医学物理学学会学術大会、2013国際医用画像総合展が同時に開催されます。今回の3名の学会長・大会長はいずれも九州大学です。3大会の会長が同一施設からというのは、はじめてのことだと思います。海外からも多くの専門家が参加され、講演されます。またシンポジウムも最新の情報を提供できるようプログラムしています。めざましい放射線医学の進歩を感じていただき、明日からの診療、研究、教育の糧としていただくことを願っています。皆様と、横浜でお会いできますことを楽しみにしております。

1. はじめに

画像診断、放射線治療ともに包括する放射線医療のめざましい進歩はご存知の通りです。真理の探究と知の創造は、医学が科学である以上、我々は常に求めなければなりません。「知の創造」とは誰も知らないことを発見することであり、それに取り組む行動が「科学」です。発見された「科学的知見」を具現化する行動が「技術」であり、それを医師として患者へ還元する行為もまた「技術」です。個々の知性が新たな創造を生み出します。優れた「知」を結集し、具現化してこそ、革新的「技」の開発が可能となります。そして、それを継承してこそ、「世界」へ向けて優れた製品を提供し、有意な人材を輩出す



JRS2013 ポスター

ることができるのだと思います。放射線医学が医学全般を牽引し、さらには我が国の放射線医が世界の放射線医学をリードする。そのような願いを込めたメインテーマです。

日本医学放射線学会は、国際化へ向かって大きく舵をきりました。多くの放射線科医諸君が国際舞台で活躍するきっかけを作ることは、学会の重要な役割です。そのため、第72回大会は、これまで以上に、各国の放射線医学会を代表する方々に数多くご参加いただくことにしています。学会は人と出会う場でもあります。ぜひ、国内外の多くの方々と親交を深めていただき、世界で活躍するきっかけを作って下さい。

2. 会期ならびに会場

2013年4月11日(木)～14日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において、第72回日本医学放射線学会総会を開催いたします。4日間のプログラムは例年通りです。

受付も昨年同様、展示ホールAに十分な広さを設けて混雑の緩和を図ります。さらに、プレビューセンターや各学会の受付、CyPos閲覧会場も設置し、展示ホールAに学会の主な機能を集めることで、参加者にとって少しでも便利な学会を目指したいと考えております。



JRC2013 ポスター

3. 参加登録

参加登録費は会員 13,000 円、非会員 20,000 円、学生 1,000 円です。

4. プログラム

発表形式は、一般口述、CyPos、実機展示、教育展示の4つに分けられます。今回は、日本医学放射線学会、日本医学放射線技術学会および日本医学物理学会の合同シンポジウムとして、以下の3つを予定しております。シンポジウム1「進化する画像モダリティとその臨床応用および今後の展望」では、最新の撮像技術が現在どのように臨床応用されているかを明らかにし、今後どのように活用していくか

を議論する予定で、将来への大きな方向性を示すことができたらと考えています。シンポジウム2「コンピュータ支援診断」では、各領域でのコンピュータ支援診断の現状と可能性について掘り下げ、開発や普及の立場から見た課題についても言及する予定です。シンポジウム3「医学物理におけるイノベティブテクノロジー」では、画像診断だけでなく放射線治療を含めた次世代の放射線技術がそのように展開されるかについて、物理、技術の立場から提案されます。また、先述しましたが、我が国の放射線科医が世界の放射線医学をリードすることを願い、「グローバル人育成に向けて」という合同企画を設けました。ECFMGの取得法、企業におけるグローバル人育成、放射線技術の国際化など、人材育成に向けて参考となる内容となっており、実際に海外で活躍されている先生にもお話を頂きます。

日本医学放射線学会の特別企画としては、「The way to publish a good paper」と題して、研究における一連の過程で、重要なポイントを確認するセッションを考えています。複数の外国人講師もお招きしており、貴重なお話が頂けると思います。また、シンポジウムとして、①脳の機能画像、②CESTイメージング、③間質性肺炎の診断と治療：放射線科医が知っておくべきこと、④循環器画像診断のエッセンス、⑤肝の画像診断：臨床への貢献と今後期待するもの、⑥膵の画像診断：最新の知見、⑦画像診断と病期分類：～どこまでわかり、どこまで追及・言及すべきなのか～、⑧癌の画像診断と治療効果・予後予測、⑨Interventional radiology：最近の動向、⑩新たなPETトレーサーの開発：臨床応用の可能性、⑪粒子線治療の今後の展開：世界を視野に如何に展開していくべきか、の11セッションを用意しています。今回のテーマに即して、英語のみを用いるシンポジウムや一般講演のセッションも考案中です。

その他、分子イメージング、IVR、PET-MRIや日本の医療を取り巻く諸問題と対策等に関する特別講演も企画しています。また、各分野でKeynote lectureとして多くの外国人講師の先生にお話頂く予定です。今年度は研修医セミナーを若干アレンジいたしました。講師の先生には、疾患の系統立てた説明ではなく、実際の症例を提示して、所見のとり方や診断までの構想過程をcase presentationの形式で講義して頂きます。教科書では学習できないよ

うな内容が盛り沢山と思います。もちろん教育講演やイメージインタープリテーションも例年同様に開催いたします。

学会終了後に、「がんの早期発見から治療まで」をテーマとした市民公開講座を、4月27日(土)にアクロス福岡 国際会議場にて開催する予定です。

5. おわりに

レントゲン博士がX線を発見してから117年が経過しました。レントゲン博士は、「科学とは人民に貢献してこそ科学である」として、一切の特許を取

得せず、発見6年後に受賞した第一回ノーベル物理学賞の賞金さえも寄付されました。このレントゲン博士の高潔な精神により、レントゲンが広く普及し、多くの人々が救われてきたのは言うまでもありません。117年間の驚くほどの進歩を肌で感じていただき、レントゲン博士の意を継承し、さらなる医学の発展に寄与する学会となって欲しいと願っております。そして、The Power of Japan を世界へ示しましょう。横浜でお待ちしています。

